

「帝国日本」境界の祭祀再編と海外神社班 2022 年度第 1 回研究会



報告 1 『樺太・薩哈噠(サガレン)(北樺太)絵葉書アルバム帳』から日本近代期のサハリン島を探る

松山紘章 (歴史民俗資料学研究所 博士後期課程)

神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター所蔵の『樺太・薩哈噠(サガレン)(北樺太)絵葉書アルバム帳』には、サハリン島の日本領樺太と 1920 年から 1925 年の間は日本の軍政が敷かれた北緯 50 度以北の北樺太の絵葉書 89 枚 (内 1 枚は沿海州尼港) が蒐集されている。報告では絵葉書の概要を紹介しつつ、海外神社研究班の対象となる日本領樺太と軍政による保障占領下の北樺太が同じ島でも異なる地域であることを示したい。

報告 2 表象としての鳥居—ブラジルを事例に

加藤里織 (日本常民文化研究所 特別研究員)

サンパウロ人文科学研究所が 2021 年に刊行した『多文化社会ブラジルにおける日系社会の実態調査—日系団体の活動状況フィールド調査からその意義と役割を探る』によると、ブラジルには約 70 基以上の鳥居が建立されているという。特に東洋人街のあるサンパウロでは、鳥居がデザインとして描かれているものも至るところで見ることができる。本報告では、このような鳥居の紹介と、ブラジルで鳥居がどのように捉えられているのかを探る。



2022 年 7 月 23 日 (土) 13:00 - 15:00

神奈川大学 みなとみらいキャンパス
2032 (2 階) 教室 (班メンバー対面会場) より
Zoom 公開

一般の方は Zoom でご参加ください。
7 月 20 日 (水) までに、下の URL あるいは
右の QR コードよりお申込みください。
後日 Zoom URL (ID/PW) をお知らせします。



<https://forms.gle/A9hhYczL6PFF4cCu9> ← 申し込みフォーム